

技能五輪全国大会 とび職部門で銅賞

中央3丁目の栗栖工業（栗栖真知子社長）の濱村宏伸さん（21）がこのほど、千葉県の幕張メッセで開かれた第53回技能五輪全国大会のとび職部門で銅賞を受賞した。大会後に村岡嗣政県知事からも表彰され、「自分の仕事の重要さを改めて感じた。社会に役立っていることを誇りに思う」と胸を張った。

濱村さんは水産高（現大津緑洋高）を卒業後、2012年に同社へ入社。現在は2級とび技能士の資格を持っている。大会は、若手技能者の

栗栖工業の濱村さん



賞状を手に笑顔の濱村さん
（栗栖工業で）

ると、とび職部門の課題は、初日にパイプで三角屋根の骨組みを築き、2日目に解体すること。初日は4時間45分、2日目は2時間半という時間制限がある。

今回の同部門には、全国から14人が出場した。濱村さんは初めて、「練習通りにいけば金賞の自信もあったが、本番では緊張のあまり作業の時間調整に手間取ってしまった」と悔やむ。それでも「入賞できたのは練習しやすい環境だったおかげ」と、会社や先輩たちへの感謝の言葉を口にした。

「先輩のような職人を目指す」

現在は主に足場の組み立て、解体作業に従事している。とてもきつく、忙しい仕事だが、すべからず、やりがいがあること話す。当面の目標は「1級とび技能士の資格を取得すること」。「将来は先輩たちのように頼られる格好いい職人になりたい」とほかに

（金村）